

バチルス・サブチリス由来のオキサレート脱炭酸酵素、組換え型

Cat. No. NATE-1688

Lot. No. (See product label)

はじめに

 \square 明 オキサレート脱炭酸酵素(OxdC、EC4.1.1.2)は、マンガンを含む酵素で、シュウ酸とオキ

サレートを分解します。OxdC触媒により、オキサレートはフォルミル酸とCO2に分解されます。この酵素は、炭素-炭素結合を切断するカルボキシーリラーゼに特に属するリラーゼのファミリーに属します。この酵素クラスの系統名はオキサレートカルボキシーリラーゼ(フォルミル酸生成)です。この酵素はオキサレートカルボキシーリラーゼとも呼ばれます。酵素は2つのカピンドメインで構成されており、それぞれにMn(II)イオンが含まれています。この酵素はグリオキシレートおよびジカルボキシレート代謝に関与しています。この酵素は、血液および尿中のオキサレートの臨床アッセイ、治療法、プロセス産業、食品および環境中のオキサレートレベルを下げるための農業など、さまざまなバイオテクノロジー□用における診断に認識されています。バチルス・サブチリスの配列から作られた組換えタンパク質には、N末端

ヒスタグを持つOxdCが含まれています。

別名 オキサレートカルボキシラーゼ; EC 4.1.1.2; オキサレート脱炭酸酵素; OxdC

製品情報

種 バチルス・サブチリス

由来 E. coli

形態
液体

製剤化 50 mM NaOAC、pH 5.5で。活性化は10 mM MMTSの添加によって停止され、還元条件下

で除去することができます。

EC番号 EC 4.1.1.2

*CAS*登□番号 9024-97-9

分子量 45.9 kDa

純度 > SDS-PAGEによる98%

活性 150U/mg

濃度 2 mg/mL

単位定義 1単位は、37°Cで1.0 μ moleのNADHを生成する酵素の量です。特定の活性はU/mgタンパク

質として表現されました。

保管・発送情報

保存方法 -20°Cで1年間安定。長期保存の場合は、分注して-70°Cで保存してください。繰り返しの凍

結と解凍のサイクルを避けてください。